

文化財DXと発掘調査のイノベーション

2026年2月4日(水)
13:00～16:30 (開場: 12:30)

アキバホール

(東京都千代田区神田練塀町3 富士ソフトアキバプラザ)

【開催概要】

日本の労働人口減少・高齢化社会問題は、発掘調査の担い手不足にも影響が予想され、文化庁は「発掘調査のイノベーションによる新たな埋蔵文化財調査システムの構築」を発表して、検討しています。一方、国土交通省ではICTの活用で建設現場の生産性向上を図るi-Constructionが急ピッチで進められています。

技術仕様や施策の共通化など一連の取り組みには、発掘調査現場の課題解決にもヒントがありそうです。デジタル技術の導入が、発掘調査にどのような未来を描くのか、考えます。

プログラム

講演1 「発掘調査イノベーションによる埋蔵文化財調査の革新」

文化庁 文化財第二課埋蔵文化財部門主任調査官 近江 俊秀

講演2 「i-Constructionで変わる建設現場」

国土交通省 大臣官房技術調査課参事官(イノベーション)グループ施工自動化企画官 菊田 一行

パネルディスカッション 文化財DXと発掘調査のイノベーション

パネラー：近江 俊秀、菊田 一行、馬場 基（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）、山口 寛（公益社団法人日本文化財保護協会理事長）

司会：野口 淳（公益社団法人日本文化財保護協会顧問・公立小松大学次世代考古学研究センター特任准教授）

申し込み方法

事前申し込み制（定員175人。2026年1月15日締切）

シンポジウムの様子は、YouTubeライブ配信（限定公開）とアーカイブ配信（2026年5月末まで限定公開）を予定しています。

お申し込みは
こちらのフォームから



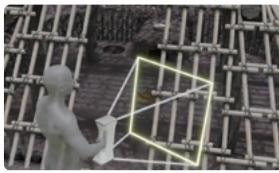
日本文化財保護協会は2025年4月に 文化財DX推進を宣言しました！

わたしたちは、
官民一体による文化財DXを主体的に推進し、
その価値を社会に還元するとともに、
未来に向けて持続可能な
文化財の保存と活用を実現します。

文化財DX



埋蔵文化財調査における3次元計測



建物の3次元計測



出土遺物の3次元計測

文化財をデジタルの力で残し、活用する

公益社団法人日本文化財保護協会は、文化財の保存と活用におけるデジタル技術活用を促進し、全国の関係機関や専門家、企業との連携を強化するための指針とするべく「文化財DX推進宣言」を取りまとめました。

策定の背景

近年、文化財の保存・活用においてデジタルトランスフォーメーション(DX)の重要性が高まっています。行政・民間・研究者が連携し、調査から保存・活用までデジタル技術を導入することで、効率的で革新的な取り組みが期待されています。

公益社団法人日本文化財保護協会は、この流れを受け「DX推進委員会(委員長野口淳)」を設置し、官民連携と専門家の知見を結集して持続可能な文化財保護を推進します。また、「文化財DX推進宣言」を策定し、全国の関係機関や企業との連携強化を図ります。

check!

文化財DXの
最新情報はこちから！

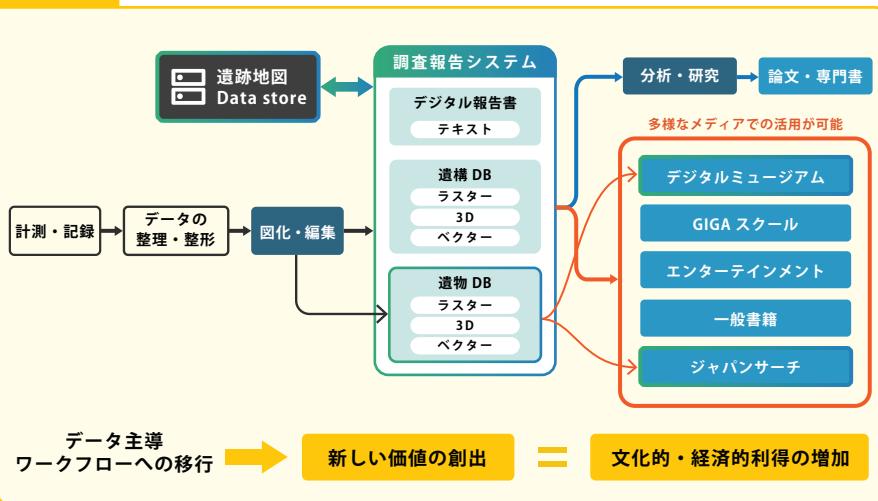


文化財の新たな価値の創出

A. これまで



B. これから



DX(デジタルトランスフォーメーション)は、単なるデジタル化ではなく、体系的導入による業務改善や新サービス創出など、システムとデザインの変革を指します。

文化財DXは、保存・活用の実務や制度、社会的利活用を最適化し、デジタルデータを新たな価値軸として位置づけます。さらに、取得から保存・活用までを最適化するデータ標準を整備し、行政や民間が協働できる体制を目指します。

- ・文化財DX
- ・文化財デジタルデータの価値
- ・データ標準
- ・官民協働と誰もが参加できる仕組みづくり

取り組みの背景・社会的意義

文化財保護法のもとで保存と活用が進められてきましたが、少子高齢化により担い手不足が深刻化しています。文化財DXはこの課題を解決し、持続可能な保存・活用を支える取り組みです。

また、地震や台風などの災害時には、首里城やノートルダム大聖堂の例のように、デジタル記録が復旧に大きく貢献します。さらに、文化財DXで蓄積されたデータは、デジタルミュージアムやGIGAスクールなどにも活用でき、文化財の価値を社会に還元する基盤となります。

お問い合わせ



公益社団法人
日本文化財保護協会

〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-13-301
TEL.03-6206-2190 / FAX.03-6206-2191
mail info@n-bunkazaihogo.jp



HP

X

Facebook